

日本国外務大臣及びジブチ共和国外務・国際協力相による 共同プレス・ステートメント

マハムッド・アリ・ユスフ・ジブチ共和国外務・国際協力相は、河野太郎日本国外務大臣の招待で、2018年8月29日から9月1日まで日本を公式訪問した。この機会に、両外相は会談を行い、両国が共通の関心を有する幅広い事項についての意見交換を行った。

I. 40年間のパートナーシップとその先へ

1. 両外相は、日・ジブチ外交関係樹立40周年に当たり、両国間の40年にわたる温かく友好的な二国間関係の発展に満足の意を表明するとともに、両国が共有する平等、主権の相互尊重、自由、民主主義、人権、法の支配及びグッド・ガバナンスを含む基本的な価値に基づき、二国間及び国際場裡における協力を強化するとの決意を再確認した。
2. 河野大臣は、世界的な国際航路の要衝に位置するジブチの平和維持活動への参加、難民受入れに係る政策、及び多角的で開かれたパートナーシップを通じた、地域の平和、安定及び繁栄の実現に対する実質的なコミットメントを歓迎した。両外相は、法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序を維持し、強化することの重要性を強調した。この点、ユスフ外相は、日本が「自由で開かれたインド太平洋戦略」の下、インド太平洋地域の平和、安定及び繁栄を確保するための取組を推進していることを歓迎し、このイニシアティブの枠組みにおいて、日本と協力することに対する関心を表明した。
3. ユスフ外相は、2009年以来、日本がソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動を実施していることを高く評価するとともに、日本国自衛隊の継続的な国際貢献及び活動に対する支持を再確認した。これに関し、河野大臣は、ジブチ政府及びジブチ国民に対し、自衛隊の受入れ、在外邦人等保護措置（RJNO）訓練を含む自衛隊の活動の遂行を可能とする拠点の提供、並びに2016年7月に行われた南スーダンからの邦人退避に係る自衛隊機の受入れ及び各種の便宜供与に謝意を表明した。河野大臣は、自衛隊の拠点の拡張に係る契約への署名に関し、両国の強固な関係を示すものであるとして、満足の意を表明した。両外相は、日本国自衛隊及びジブチ国軍が、地域の平和と安定のみならず災害対処でも重要な役割を担っていることに留意し、両者の間のより一層重要な協力関係に対する期待を表明した。
4. 両外相は、二国間関係、地域情勢及び国際関係に関する相互の関心事項について協議し、二国間の具体的な協力を推進するため、定期的な意見交換を行う必要性を認識した。この観点から、両外相は、政策対話の枠組みを立ち上げる意図を表明し、追ってそのモダリティを決定することとした。両外相は、ジブチにて定期的開催されてきた、経済協力に関する政策協議を歓迎した。

- ユスフ外相は、開かれ、包摂的で、透明性の高いフォーラムであるアフリカ開発会議（T I C A D）プロセスを通じたアフリカの開発に向けた日本の重要な役割及び貢献に謝意を表明した。河野大臣は、イスマイル・オマール・ゲレ・ジブチ大統領が大統領就任以来一貫してT I C A D首脳会合に参加してきたことを高く評価するとともに、2016年のT I C A D VI高級実務者会合のジブチ開催を含め、T I C A Dプロセスへのジブチの積極的な関与に謝意を表明した。両外相は、2018年のT I C A D閣僚会合及び2019年のT I C A D 7の成功に向け協力することを確認した。

II. 一層の繁栄に向けた二国間協力

- ユスフ外相は、ジブチの独立以来、ジブチの国造りや国民の生活環境向上に資する協力を日本が着実に実施してきたことに謝意を表明した。河野大臣は、アフリカにおける物流ハブとして主要な役割を果たそうとするジブチの意図を歓迎し、ジブチの持続可能な発展のため、質の高い経済社会基盤の整備を引き続き支援していく考えを表明した。両外相は、開放性、透明性、経済性及び被援助国の財政的健全性といった国際スタンダードに従った質の高いインフラを推進する重要性を強調した。ユスフ外相は、インフラ整備に際しての投融资や譲許性の高い借款の重要性を強調した。また、両外相は、民間セクターの進出を促進するため、良好な投資環境及び投資機会に関する戦略的な情報発信の重要性を強調した。
- ユスフ外相は、日本による国道1号線整備計画を始めとする道路インフラ整備支援及び海上輸送能力強化のためのフェリーの供与に対する満足の意を表するとともに、道路維持管理のための機材供与に謝意を表明した。また、ユスフ外相は、ジブチにおけるクリーンエネルギー推進に資する、地熱プロジェクトの早期実施を要請した。両外相は、開発協力事業の計画的な、かつ着実な実施に向け、引き続き緊密に協議していくことを確認した。
- 両外相は、国造り及び経済発展の礎としての教育と職業訓練の役割の重要性について一致した。ユスフ外相は、アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（A B E イニシアティブ）、課題別の実務者育成、資源の絆プログラム等の枠組みを通じた、人材育成に対する日本の貢献を強調した。両外相は、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（S A T R E P S）の枠組みの下、乾燥地に適した農牧業・緑化を目指した持続可能な水資源管理に関する共同研究が開始されることを歓迎した。
- 両外相は、福島県南相馬市の「復興『ありがとう』ホストタウン」交流事業におけるジブチの子どもたちの訪日を歓迎した。河野大臣は、東日本大震災に際してのゲレ大統領及びジブチ国民からの連帯と支援に改めて謝意を表明した。また、河野大臣は、平成3

0年7月豪雨に際してのジブチ側からのお見舞いの意に謝意を表明した。ユスフ外相は、サイクロン・サガルによる被害に対する日本からの緊急物資援助及び日本による医療機材の供与に謝意を表明した。

10. 両外相は、持続可能な都市開発の重要性を確認するとともに、3R（Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル））及び廃棄物管理を通じて都市活動の悪影響を軽減する必要性を認識した。この観点から、両外相は、日本による「アフリカのきれいな街プラットフォーム」の取組を歓迎した。

Ⅲ グローバルな平和と繁栄のためのパートナーシップ

11. 河野大臣は、アフリカ連合ソマリア・ミッション（AMISOM）に対する部隊派遣を通じたソマリアの安定化への貢献、周辺国からの難民の受入れを始めとする、アフリカの平和と安定のためのジブチによる取組に敬意を表明し、基礎的社会サービスの回復、治安維持能力の向上及び国内産業の活性化を中心とするソマリアに対する支援を継続するとともに、ジブチの取組を引き続き支援していくとの考えを表明した。ユスフ外相は、平和国家としての日本の戦後の国際社会への貢献を評価するとともに、日本の国際協調主義に基づく「積極的平和主義」に対するジブチの支持を表明した。
12. 両外相は、IMOジブチ行動指針に基づく地域諸国の能力強化のため、ジブチ地域訓練センターの一層の活用を進める意図を共有した。ユスフ外相は、海賊、海上における越境組織犯罪、海上テロ及び違法漁業への対策を講じていく決意を表明し、日本を始めとする関係諸国と連携しながら、同センターの経済的自立を確保し、運営体制整備を進めるため、ラウンドテーブルを開催する必要性を強調した。ユスフ外相は、ジブチ沿岸警備隊の能力向上のための日本の継続的な支援に謝意を表明した。
13. 両外相は、海洋法に関する国際連合条約（UNCLOS）に反映されたものをはじめとした普遍的に認められた国際法の諸原則にのっとり、法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序を維持・強化することへのコミットメントを再確認した。両外相はまた、航行及び上空飛行の自由、自制並びに国際法に基づく紛争の平和的解決の重要性を強調した。
14. 両外相は、国連安全保障理事会をより正統性があり、実効的で、代表性が高いものとし、国連の信頼性を一層強化するため、常任・非常任理事国の双方の拡大を含む安保理改革を早期に実現する必要性につき一致した。両外相は、ニューヨークの政府間交渉の最近の議論を踏まえ、アフリカ共通ポジションが十分に反映されたテキストに基づく交渉の早期開始に向け、国連安保理改革プロセスを更に前進させることの重要性を強調した。両外相は、隔たる立場を橋渡しし、安保理改革の全ての要素に包括的に取り組むため、

関係諸国間の対話を継続することの重要性を認識した。

15. 両外相は、北朝鮮をめぐる現在の進展に関し、国際社会によるこれまでの全ての取組を評価した。両外相は、2018年4月27日の南北首脳会談において発出された「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言文」及び6月12日の米朝首脳会談における共同声明にて確認された朝鮮半島の完全な非核化という共通の目標に向け、北朝鮮が具体的な行動を起こすことに強い期待を表明した。特に、両外相は、北朝鮮による生物・化学兵器を含む全ての大量破壊兵器（WMD）、あらゆる射程の弾道ミサイル及び関連施設の完全な、検証可能な、かつ不可逆的な方法での廃棄に向けた北朝鮮の具体的な措置が必要であることを強調した。また、両外相は全ての関連する国連安保理決議を完全に履行することの重要性を確認した。両外相は北朝鮮に対し、拉致問題の即時解決を求めた。
16. 両外相は、国家及び人々の平和的共存の原則、国際社会の平和と安定の促進並びに人間の安全保障の概念に基づき、アフリカ連合アジェンダ2063並びに持続可能な開発のための2030アジェンダ及び持続可能な開発目標（SDGs）を実現するために、不拡散、テロ及び暴力的過激主義対策、気候変動、防災、ジェンダー平等といった幅広い地球規模課題に対処するに当たっての協力を強化することで一致した。
17. 両外相は、様々な多数国間の枠組みにおける日本とジブチとの緊密な協力を維持する意図を再確認した。ユスフ外相は、2025年国際博覧会誘致選挙における大阪へのジブチの支持を表明した。河野大臣は、ジブチの支持について、ユスフ外相に対して深甚なる謝意を表明した。
18. ユスフ外相は、訪日中、日ジブチ友好議員連盟の国会議員、JICA理事長及び政界・財界の要人と会談を行った。ユスフ外相は、河野大臣及び日本国政府に対し、同外相一行に対する今次訪日中の温かい歓迎ともてなしに謝意を表明し、河野大臣に対し、近い将来ジブチを訪問するよう招待した。

東京、2018年8月30日